

# News release



※この参考資料は 2008 年 9 月 18 日に米国、バージニア州で発表された資料を抄訳したものです。

2008 年 11 月 5 日

報道関係者各位

ベリングポイント株式会社

## 情報セキュリティ・リスク管理に関する担当部門と企業幹部の意識調査 ～ 重要性を認識しながら行動が伴わない企業幹部、 ビジネスの理解不足から正しいメッセージを伝えられない担当部門～

米国バージニア州マクレーン(2008 年 9 月 18 日) — ベリングポイントとフォレスターコンサルティングが実施した調査によると、企業幹部の多くは情報セキュリティ・リスク管理について、その重要性を認識しながらも行動が伴っておらず、一方で情報セキュリティ・リスク管理者はビジネスに関する理解不足から企業幹部に対して自身のメッセージを正しく伝えられないことが明らかになりました。

本調査報告書は<http://www.bearingpoint.co.jp/library/research.html>にてご覧いただけます。

本調査は米国、EMEA、アジア太平洋地域における売上 2 億 5,000 万ドル超の大企業 175 社に対して行なったもので、企業幹部と情報セキュリティ・リスク管理者に組織内の情報セキュリティ・リスク管理に関する取組み上の課題と優先順位について質問しました。

本調査により、回答者の大半が情報セキュリティ・リスク管理は CEO 又は取締役レベルの懸案事項であると答える一方、他の経営課題が優先され、情報セキュリティ・リスク管理に対する組織的な取組みが妨げられていることが判明しました。

また、組織構造が複雑であり、あらゆる情報セキュリティ・リスク管理の責任をひとつのグループが負うのではなく、しばしば組織内の複数のグループに委ねられているという実態があります。全回答者の3分の1超が複数のレポートラインを持ち、人事、法務、財務もしくはエンタープライズリスク部門への報告も行っています。

回答者の多くは、情報セキュリティの測定・分析・報告は大きな課題の一つであると指摘しています。また、企業幹部の約半数が情報セキュリティとコンプライアンス確保の主な手段として内部監査を挙げました。一方で第三者による評価を挙げた人はほとんどいませんでした。さらに、多くの組織においては第三者とビジネスパートナーのリスク管理においてインフォーマルな手続きと自己評価を用いており、また、回答者の 4 人に 3 人が、測定された結果は意思決定に利用されないと感じています。

本調査は、企業幹部は情報セキュリティ・リスク管理者と比較して、組織内の情報セキュリティ・リスク管理の水準に関して自信を持っており、今後 12 ヶ月の間に情報セキュリティやリスクに関する取組みに対して少ない支出を見込んでいることを指摘しています。この意識の隔たりを埋めるには、両者がコミュニケーションをしっかりとることにより、経営者が正しい現状認識に基づき、経営課題の優先順位を決定できるようにすることが必要です。

本調査の結果に対して、ベリングポイントのリスク・コンプライアンス・セキュリティーのグローバルリーダーである J.R.レーガンは次のように述べています。

「組織が複雑で複数のレポートラインが存在すること、情報セキュリティ・リスク管理者と企業幹部間のコミュニケーションが不十分なことから現状が正しく把握されず、他の経営課題が優先されてしまうことが、計画から実行に至るまで、有効な情報セキュリティの構築における障害となっています。情報セキュリティ・リスク管理がビジネスを行なう上で不可欠ならば、全社における優先事項とすることができるはずです。」

#### ■今後の重要課題は適切な資質とコンピテンシーを備えた人材の確保

本調査は、情報セキュリティ・リスク管理者は筋金入りの専門家ではなく、適切なコミュニケーションがとれ、交渉ができ、助言ができる人材になることが一層重要だということを示しています。ビジネスの観点から物事を理解する適切なバックグラウンドを持っているだけでなく、企業幹部が情報セキュリティ・リスク管理に対する技術的・戦術的なソリューションを策定するのを支援する方法を理解している必要があるといえます。グローバル化が進展している現在、このような適切な資質とコンピテンシーを備えた人材の確保は、どこで適切なコンピテンシーの組み合わせが得られるかにより、情報セキュリティ・リスク管理機能のインソーシング、アウトソーシング、コソーシングを意味するかもしれません。

#### 本件に関するお問い合わせ先:

プライスウォーターハウスクーパース コンサルタント株式会社 (旧ベリングポイント)  
マーケティング

E-mail: [consultants.inquiry\\_mailbox@jp.pwc.com](mailto:consultants.inquiry_mailbox@jp.pwc.com)

## 【添付資料】

### ■調査方法と回答者のプロフィール

2008年7月にベリングポイントとフォレスターコンサルティングは情報セキュリティ・リスク管理の取り組み上の課題と優先順位について、米国、EMEA、アジア太平洋地域の売上高2億5千万ドル超の大企業175社の情報セキュリティ・リスク管理者と企業幹部を対象に調査を実施しました。

#### ・地域別分類：

米国 106名、EMEA 39名、アジア太平洋地域 30名

#### ・売上高別分類：

2億5千万ドル超10億ドル以下の組織 68名

10億ドル超100億ドル以下の組織 75名

100億ドル超の組織 22名

その他 10名

#### ・情報セキュリティ・リスク管理者と企業幹部の割合：

情報セキュリティ・リスク管理、ITの職にある方 59名

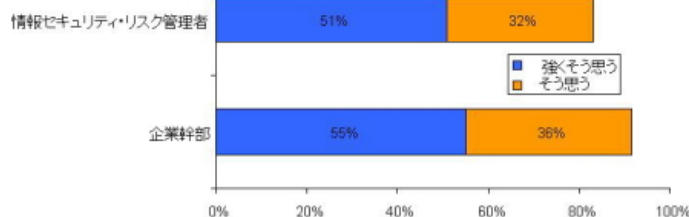
ビジネスリーダー、経営者、職能組織の部門長職にある方 116名

### ■参考データ

図1: 企業幹部の大半は情報セキュリティ・リスク管理がCEOレベルの懸案事項であると感じている

企業幹部の大半は情報セキュリティ・リスク管理がCEOレベルの懸案事項であると感じている。

情報セキュリティ・リスク管理はあなたの組織においてCEO又は取締役レベルの懸案事項であると感じていますか。



あなたの組織において、情報セキュリティ又はリスク管理部門の責任者はどのくらいの頻度でCEO又は取締役に会っていますか。



出典：情報セキュリティ・リスク管理に関する調査 - 2008年7月実施  
回答者数175名

Entire contents © 2007 Forrester Research, Inc. All rights reserved.

FORRESTER

図 2: 情報セキュリティ・リスク管理部門には複数のレポートラインが存在する

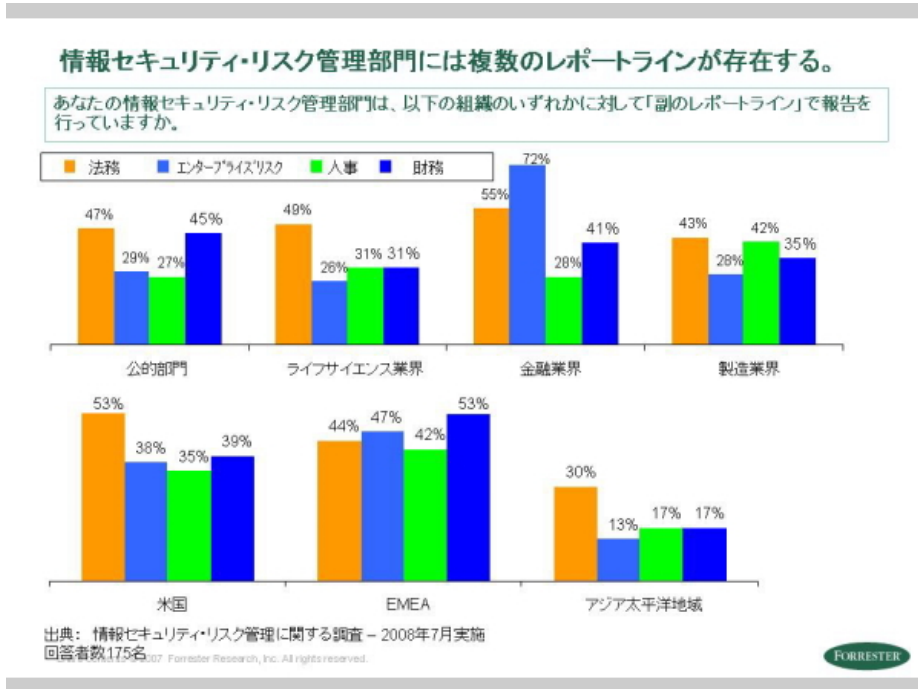


図 3: 企業幹部の方が組織全体の情報セキュリティ・リスク管理に自信を持っている

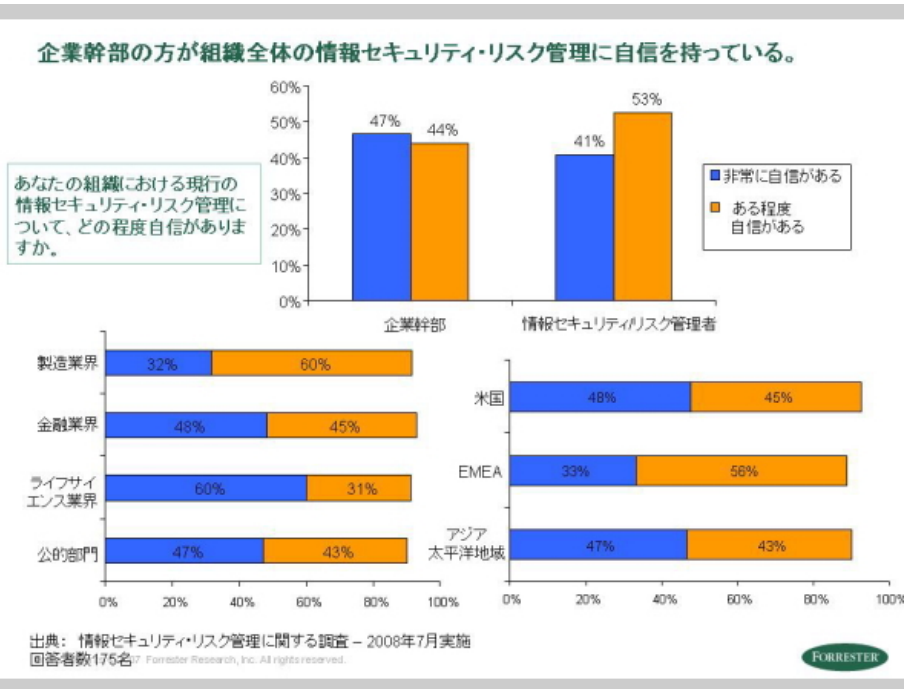


図 4: 測定、分析、報告が引き続き課題となる

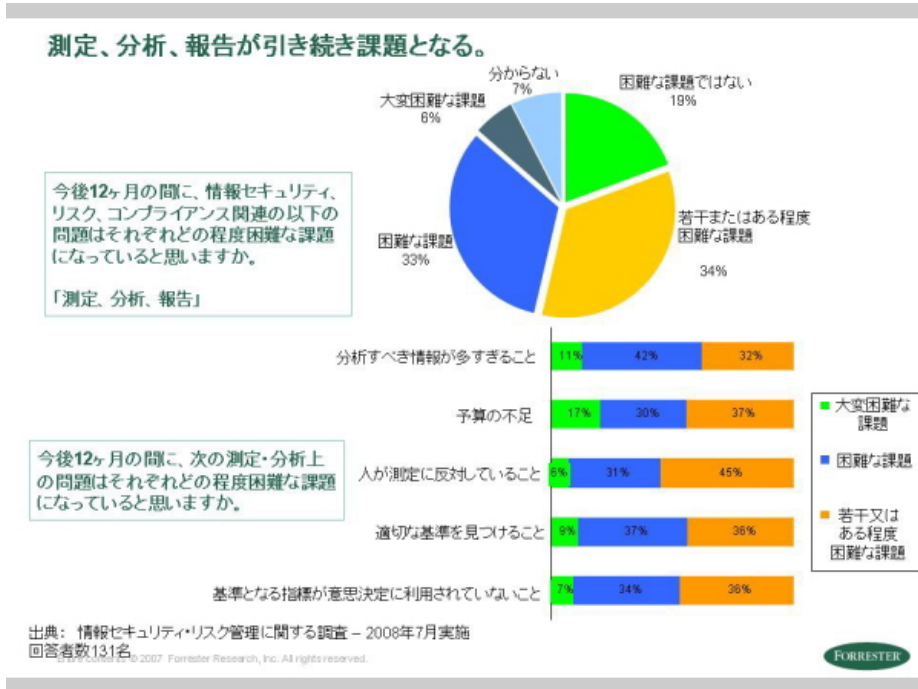
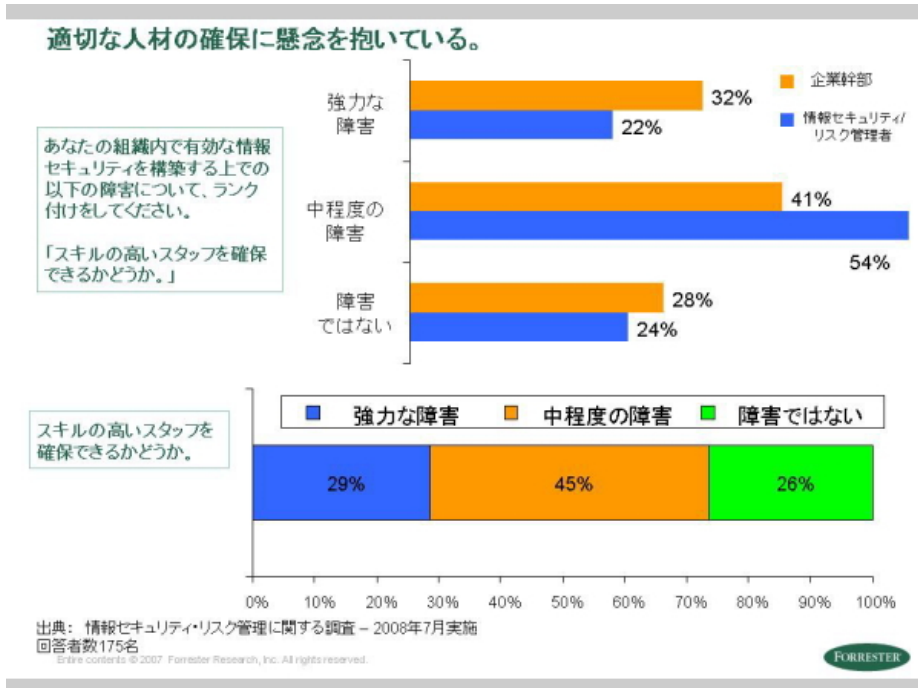


図 5: 適切な人材の確保に懸念を抱いている



以上